令和3年度　県立山形北高等学校　学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標	
	一つ「ほがらかに　温かく」
	二つ「まえむきに　誇らしく」
	三つ「しなやかに　逞しく」

達成度	
A	達成
B	おおむね達成
C	やや不十分
D	不十分

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
1　学力向上と学習指導の充実	(1)カリキュラム・マネジメントに努め、グランドデザインに掲げた生徒の資質・能力の育成を図る。	①年間授業時数を１単位35時間確保する。 ②時間割変更により自習時間を減少させる。	・授業日数を確保する。年間行事予定を確認し、短縮授業は必要最小限にとどめる。 ・時間割変更届の提出期限厳守を呼びかけ、授業の振替えを行う。	・行事の変更等にともなう日程の調整を随時行った。 ・授業の振替えを行っているが、時間割変更のできない場合も多く、自習時間がやや多くなっている。	B	○コロナ渦でも、授業日数と授業時間の確保に努める。 ○急な自習に速やかに対応ができるように、教科主任と連携をはかる。	○教室内にプロジェクタや無線LAN等が整備され、ＩＣＴ環境が整ったことは評価できる。 ○自己評価の達成度がB→Ａへ進むよう引き続きの取組をお願いします。 ○探究学習のテーマに、いち早くジェンダー分野や環境・エネルギー分野等を入れて学習したことは、すばらしい。 ▲探究学習の成果や効果、課題がわかるとよい。 ▲芸工大との連携協定で探究学習が今後どのように発展していくのか期待します。
	(2)新教育課程、観点別評価に対する理解を深め、授業改善を推進する。	①各教科で研究授業を１回以上実施し、職員全体で合評会を行う。 ②観点別評価への理解を深め、シラバスや授業評価に反映させる。 ③教育課程委員会との連携をはかり、新教育課程に向けた準備を整える。	・研究授業の実施を周知するとともに、職員相互の授業見学を推進する。 ・校内研修会の開催する。また、外部で開催される研修会への参加を促す。 ・他校や教育センター等の研究授業、研修会への参加を促す。	・研究授業は、ほぼ予定通り各教科で実施された。また、実施について職員朝会や職員連絡掲示板を使って周知した。 ・10月に職員研修会を行い、他校の事例等に学びながら、観点別評価についての共通認識や今後の校内での取組みについて理解を図った。 ・オンライン形式によるものが多かったが、各種講演会や研修会について文書等で周知し参加を促した。	B	○普通教室内にプロジェクタや無線LAN等が整備され、ICT機器の活用は必須となっている。教科内、校内全体でICT機器を用いた授業展開について研究、共有していくことが必要。 ○観点別評価については、先進事例を参考にしながらシラバス・評価基準の作成等を早急に進める。	
	(3) 学力向上のため、協働的な学びや探究的な学習を推進するとともに、学習時間の確保を図る。	①校内研修会を実施し、探究活動の推進を図る。 ②家庭学習時間平日３時間以上、休日４時間以上を目指させる。 ③年間を通じ、総合的な探究の時間における協働的な学びを各学年で実施する。	・新教育課程や課題探究に関する研修会を実施する。 ・学習時間調査を実施し、家庭学習の定着を図る。 ・各学年の年間計画に基づき、全職員の協力による指導を行う。	・５月に職員研修会を行い課題探究の方法論や目的について、職員間の共有を図った。 ・６月にClassiを使い、校内全体で調査を実施した。平日の学習時間は２時間程度であった。その後、学年ごとに適宜、調査を実施している。 ・１・２年は計画通りに授業が展開され、12月と１月に最終発表会を行った。また、３年は進路実現に向けた探究学習を進めている。	B	○探究学習については、活動内容や年間の流れが定着しつつある。東北芸術工科大学との連携協定の締結、県の課題研究発表会への参加等、外部との関わりや発信を通じた探究課題の深化を目指す。 ○ClassiやGoogleフォームによる学習時間調査、生徒の自己評価やアンケートを活用し新教育課程での学び、多様な学習活動につなげる。	
	(4)読書活動を推進する。	①先見の時間の読書ｶｰﾄﾞ提出率を100％にする。 ②年間貸出冊数2000冊以上を目指す。 ③年間一人10冊以上の読書を奨励する。	・生徒への生活指導・小論文指導を徹底する。各課・学年との連携を図る。 ・図書館活動・図書委員活動の充実を図る。特設ｺｰﾅｰの更新など魅力的な図書館づくりを行う。また、探究的な学習での活用に対応できる環境を整える。 ・読書の意義について指導する。読書関連行事の更なる工夫を行う。	・第１タームの読書カード提出率は95.8％であった。 ・「ふぐるま」の定期発行の他、ビブリオバトルの校内予選開催など、随時、新しい図書館情報や企画を発信した。また、小論文の特設コーナーの更新など魅力的な図書館づくりに努めた。 ・１年生向けに図書館ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝを行い、読書の意義について指導した。	B	○引き続き、学年や教科と連携し、読書の大切さを伝えていく。 ○今年度も生徒の読書に対する関心を高めるため、11月の朝読書で本を読む習慣をつける取り組み（ＨＹＳＴ)を行った。 ○貸出冊数は12月3日現在で1228冊。探究学習でも書籍の利用が減少傾向にあり、促進の方策を模索中である。	
2　キャリア教育の推進	(1)３年間を見通したキャリア教育の一層の充実を図る。	①校外の体験活動や授業・講義、校内での説明会や出張講座等の参加率を80%以上を目指す。 ②生徒の振り返りを公開し、キャリア教育に対する保護者評価において肯定度80%以上を目指す。 ③教員向け進路指導研修会を実施し、参加率70%以上を目指す。	・1年間を通して校内外キャリア教育プログラムに一度は参加するよう働きかける。 ・中学校から続く記録（キャリアパスポート）に継続的に残す。 ・最新の入試状況を捉えて、情報共有化を進めていく。	①について ・地元大学促進セミナー（7月、12月） ・1、2年生は夢ナビライブ（10月） ・2学年大学訪問（12月） ・大学生との協働活動（12月） ・看護医療系説明会　1・2年（2月） ②各学期ごとの振り返りを行った。 　ルーブリックについては未実施。 ③Classi研修会実施（5月）	B	○校外の体験活動やキャリア教育プログラムへの参加を促すために情報提供を積極的に行う。 ○大学訪問を行い、地元大学との積極的な繋がりを構築する。 ○マナビジョンやClassiを用いて振り返りを行い、可視化して次年度につなげる。 ○職員研修会の企画	○地元の国立大学である山形大学への進学者増は、高い評価である。 ○進学について、地元大学との更なる連携の強化。 ▲保護者アンケートより、初めての大学受験となる家庭において、いつまでに何をすべき等不安の声がある。より多くの情報を伝えれもらえれば。
	(2)進路第一志望達成に向け、進路意識の高揚を図る。	①生徒向け進路講演会について70%以上のプラス評価を得る。またルーブリックを用いた振り返りをする。 ②保護者向け進路講演会の参加率を50%以上にし、またアンケート評価において70%以上のプラス評価を得る。	・各学年と連携を図りながら、外部の研究会で情報収集に努める。 ・該当学年が、３年間の進路指導の中でどのような情報が必要なのかを明確にして、保護者に伝える。	①外部講師（ともに山形大学） ・鈴木晃彦先生・柿﨑悦子先生 ②外部講師（ともに山形大学） ・鈴木晃彦先生・柿﨑悦子先生（動画配信） ・ライセンスアカデミー	B	○適切な時期に適切な講師を選択し、適切な内容で生徒の意識に訴えかけられるよう企画する。 ○ルーブリックの準備 ○明確な趣旨を示して、保護者対象の進路講演会や入試説明会を準備する。	

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自　己　評　価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
３　生徒指導の推進及び特別活動の充実	(1)基本的生活習慣を身につけ、心身の健康管理保持増進に努め、自己成長を図る。	①学校生活時間を守る。 ②交通事故発生件数を０にする。 ③登下校・校外活動において、他校生の模範となる行動（交通安全、挨拶・礼儀等）を目指す。	・フルクラムの有効利用を図るとともに、昇降口での遅刻指導や、放送による下校の呼びかけ等により、時間管理意識を高める。 ・生徒交通安全委員会の活動や集会等を利用した注意喚起等により、交通ルールやマナーについての指導を強化する。 ・生徒会執行部を中心に生徒総会、学年集会で話題に取り上げて生徒が主体的に行動するようにする。	・フルクラムは学年ごと有効に活用されている。遅刻者は固定化されてきている。 ・交通事故は７件と多い。事故内容は被害事故3件、加害事故2件、自損事故2件であった。近隣の住民からは交通ルールに関する苦情があった。自転車指導警告票交付件数5件。 ・登下校中の服装やマナーについて苦情があり、良い状態とは言えない。	C	○引き続きフルクラムの有効活用を図る。遅刻者は固定化されてきているので生徒それぞれの事情を理解して指導にあたる。 ○交通安全委員会及び生活委員会を中心に交通ルールやマナーの向上の呼びかけを行う。ポスターを作成し、掲示する。 ○高校生自転車交通安全教室を実施するなどして交通事故防止をねらう。	○生徒の活躍を新聞等で拝見し、嬉しく思っている。コロナ禍で制限された学校生活の中で、様々な学びに挑戦する姿から活力をいただいている。 ○音楽科について、演奏会を経験して、成長する姿を見てきました。コロナ禍でも発表の場を工夫して実践しており、これから発表の場が増えることを願っております。 ▲交通事故が心配。入学後、慣れない自転車通学が、事故につながっているのでは。交通安全教室等をやってはどうか。
	(2)豊かな人間性をはぐくみ、いじめ防止に取り組む。	①いじめの根絶を図る。 ②SNSに関わるトラブルを抑制する。	・アンケート調査を年３回実施するとともに、面談等や普段の生活から生徒の状態を把握して早期発見、防止に務める。 ・生活委員会の活動やチラシの作成、学年集会などでトラブル回避を喚起する。	・計画に沿って実施している。いじめの認知としては２件あったが、速やかな対応ができた。 ・他校との間で1件あったが速やかに対応することができた。	B	○アンケート調査のみに係わらず普段の生徒の生活状態を把握していじめの早期発見、防止に心がける。	
	(3)生徒会活動や部活動の活性化を図り、地域貢献活動等を推奨し、自己実現を図るとともに連帯感を醸成する。	①生徒会行事に係る満足度を高める。 ②インターハイ並びに全国高総文祭への複数参加を目指す。 ③ボランティアエンジェルへの登録者増加を図る。（200名以上）	・生徒の主体的、協働的な活動を支援して北高三大行事を成功させる。 ・部活動運営方針に沿った活動を継続するとともに、コロナ対策についての指導も強化する。 ・地区の民生児童委員や市社会福祉協議会等関係団体との連携を強化する。生徒への情報提供機会の充実を図る。	・コロナウイルス感染症で活動内容等が変更になったが、波乗り大会、北高祭では工夫して成功裏に終了した。 ・適切なコロナウイルス感染症対策を講じて活動し、放送部、吹奏楽部、チアリーダー部、なぎなた部が全国大会に出場した。 ・登録人数は200名であり、山形市学習支援ボランティア、青年の家ＹＹボランティアに55名が参加し活動。1/14 除雪ボランティアに２７名参加。	B	○引き続き、コロナウイルス感染症対策における「新生活様式」を基にそれぞれの場面において適切な行動をする。 ○ボランティアエンジェルの活用、部活動単位での参加を呼びかけ対応していく。	
４　健康の保持増進と快適な学習環境の整備	(1)心身の健康保持に努め、健康保持増進を図る。	①出席率95％以上を目指す。 ②不登校生徒対策として、一次予防を充実させる。 ③感染症の集団発生ゼロを目指す。	・基本的生活習慣の改善のための生徒保健委員会による啓蒙活動、生徒向け講演会等を行う。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、生徒向け講演会、カウンセリングを実施する。 ・感染症に関わる情報を収集し対策を講ずる。換気を行い密を避ける指導や、健康観察･消毒を行う。	・出席率98.5%を達成。保健委員会の研究発表･昼の放送･保健だより作成やSCによる講演会を行った。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、いのちの学習、ＳＣ事業などを実施。 ・換気、消毒、ぶじっによる校外での健康観察などを行った。施設の消毒には校務補助員も活用している。	B	○出席率は目標を達成。行事も予定通り行った。 ○欠席の多い生徒について、SCや医療機関と連携しても難しいケースがある。良好な生活習慣を維持する指導も予防的に必要だろう。 ○換気の呼びかけは要継続。消毒方法は要再検討。	▲要望ですが、洋式トイレ不足や冷暖房設備等について、可能な範囲で対応し学校での生活環境を整えてほしい。 ▲コロナ禍の影響で、心身のバランスを崩す生徒がいるようで残念です。
	(2)環境の美化に努め、快適な学習環境を維持する。	①登校日の清掃を完全実施する。 ②教室や水道の環境基準を遵守する。	・登校日（模試・講習・考査含む）の通常清掃や大掃除を実施し、年１回のワックスがけを行う。 ・定期点検や、温度・湿度・CO２濃度・照度、水質等の測定と改善を行う。	・予定どおり大掃除、ワックスがけを行い校内の美化に繋がった。 ・水道への塩素投入により、特別教室棟の残留塩素不足に対処している。CO２濃度等は２月に検査する予定。	A	○老朽化するなか、修繕や清掃により、安全で清潔な校舎になるよう努めてもらっている。 ○模試や講習の日の清掃方法は要検討。 ○トイレの臭気が一部改善している。水道の塩素投入は継続する。	
５　家庭、地域社会とのつながりの推進と安全安心な学習環境の整備	(1)危機管理体制を整備し、災害や事故の防止に努める。	①危機管理体制を不断に見直しを図る。 ②「ぶじっ」を適切かつ迅速に発信する。 ③毎月定期点検を行い、校舎を維持管理する。	・危機管理マニュアルを提示し周知を図る。 ・職員、保護者、生徒への登録の徹底を図り、迅速な情報提供と安否確認を行う。 ・関係各所と連携を密にし、維持管理を徹底する。	・従来の規程を見直し、確認すると共に、ｺﾛﾅ感染対応ﾏﾆｭｱﾙを掲載し、職員便覧を改訂し、職員への周知を図った。 ・欠席連絡の他、コロナ対策として生徒一人一人の毎日の健康観察に活用した。学校から災害予報情報を発信するなど、迅速な生徒の安全確保に努力した。 ・毎月はじめに全職員による担当場所の安全点検を行い、事務部と協力し修理・修繕を進めた。	A	○危機管理マニュアル及び避難経路の不断の点検を実施し、さらなる安全確保に努める。 ○年度後半の大雪時期に対応し、天気予報や交通機関運行状況に関する情報を迅速に入手し、生徒の指導にあたる。 ○経費削減及び効率化を図りながら、校舎の維持管理に努める。	○ＨＰのﾘﾆｭｰｱﾙ等外部に向けた情報発信ができている。今後とも、保護者、地域の方との情報共有をお願いします。 ○HPが見やすくなった。音楽科の演奏風景も載せてもらいたい。
	(2)開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を図る。	①ＨＰの月２回以上の更新、学校広報紙「緑陵」を月１回配布を通して、地域社会等への情報発信を行う。 ②PTA総会出席率を７０％以上にする。	・担当者との情報共有を図り、地域への情報発信を積極的に行う。 ・ＰＴＡ役員の協力を仰ぎ、目標達成を目指す。	・ＨＰをﾘﾆｭｰｱﾙし、学習、部活動、進路指導、学校行事等について、生徒、保護者、地域社会への情報発信を迅速に実施。 ・ｺﾛﾅ感染予防による書面会議で、95%の回答率、100％の承認率を達成し、教育活動、PTA活動への保護者の理解が充分得られた状況である。	A	○他分掌と協力しながら、ＨＰや「緑陵」に加え、Classi、紙媒体などを適切に使い分け、積極的な情報発信を行うよう工夫する。 ○年度後半、コロナ感染状況を踏まえながら、評議員会の集会実施を目指す。	